



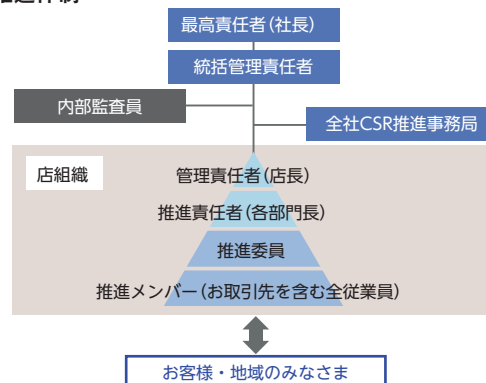
環境負荷の低減を、着実に。

近年、地球上でさまざまな環境問題が発生しています。なかでも地球温暖化につながる温室効果ガス(CO2など)の排出や、食糧・健康に影響を及ぼす生物多様性の損失は、地球全体に影響を及ぼすため、全人類共通の課題となっています。

当社グループは、小売業を中心とした事業活動を展開していることから、物販及び店頭活動を通じた取り組みを行うことがもっとも貢献できる領域であり、また社会的使命であると考えています。

そのために「J.フロント リテイリング環境方針」を設定し、グループ各社がそれぞれの事業活動の中で環境保全活動を推進する体制を構築し、取り組みを進めています。

大丸松坂屋百貨店の環境・社会活動マネジメントシステム推進体制



※JFRグループ企業も、百貨店とともに環境活動に取り組んでいます。
(大丸松坂屋セールズアシエーツ、大丸松坂屋友の会、JFRカード、ディンプル、J.フロントアーズ、JFRサービス)

J.フロント リテイリング 環境方針

私たちJ.フロント リテイリンググループは、かけがえのない地球環境を次世代へ残していくための自らの役割と責任を認識し、お客様・お取引先様・地域の皆様とともに「持続可能な社会の実現」に向けた「環境にやさしい企業経営」を積極的に推進します。

- ① 環境に及ぼす影響とその原因を認識し、グループ各社の事業活動を通じて環境保全活動を推進する体制・仕組みを構築し、環境負荷の低減に向け継続的な改善に取り組みます。
(1) 環境にやさしい商品・サービス・情報の提供
(2) 資源・エネルギーの有効活用
(3) CO2排出量の削減
(4) 廃棄物の削減と再資源化
(5) お客様、お取引先様や地域の皆様と取り組む環境保全活動・社会貢献活動
- ② 環境に関する法令、条例及び協定などの要求事項を順守するとともに、汚染の予防に努めます。
- ③ 教育・啓発活動を通じて環境保全に対する意識の向上を図り、グループ内で働く一人ひとりが環境課題に自ら取り組む基盤を強化します。
- ④ この環境方針は、グループ各社で働くすべての人に周知徹底するとともに、社外にも公開します。

2017～2021年度 大丸松坂屋百貨店

環境・社会活動目標

大丸松坂屋百貨店では、中期経営計画と連動して2017～2021年度の中期環境数値目標を設定して環境活動に取り組んでいます。

〈数値目標〉

- エネルギー使用量を2021年度に原単位で2016年度に対し5%削減することにより、エネルギー使用に伴うCO2排出量を削減する。
※百貨店の事業活動におけるCO2排出量は、空調、照明の使用に起因します。
- 最終廃棄物処分量(廃棄物発生量ーリサイクル量)を2021年度に原単位で2016年度に対し5%削減する。
- 食品リサイクル率を2021年度までに60%台に向上させる。

2017～2021年度大丸松坂屋百貨店の環境数値目標

(博多大丸、下関大丸、高知大丸、鳥取大丸を含む)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
CO2排出量 (原単位) ^{※1}	0.0424	0.0414	0.0410	0.0405	0.0401
エネルギー使用量 (原単位) ^{※2}	0.0204	0.0197	0.0196	0.0195	0.0193
最終廃棄物処分量 (原単位) ^{※3}	11.13	10.97	10.85	10.74	10.63
食品廃棄物 リサイクル率 ^{※4}	59.8%	57.0%	58.0%	59.0%	60.0%

※1 原単位: CO2排出量(t-CO2) / 営業時間(h) × 延床面積(m²)
2018年度以降のCO2排出量目標は、2016年度のCO2排出係数をもとに算出しています。

※2 原単位: エネルギー原油換算量(kl) / 営業時間(h) × 延床面積(m²)

※3 原単位: 最終廃棄物処分量(kg) / 売上高(百万円)

※4 食品廃棄物リサイクル率 / 食品廃棄物発生量

環境・社会活動マネジメントシステム

大丸松坂屋百貨店では、ISO14001環境マネジメントシステムを拡大し、環境・社会活動マネジメントシステムを構築しています。推進体制として、業務本部長を「統括管理責任者」、各店店長を「管理責任者」、部門長を「推進責任者」とするほか、実務を担当する「推進委員」を配置し、お取引先を含むメンバーへの教育・啓発を行っています。

大丸・松坂屋 ECOFF (エコフ) リサイクル活動

大丸松坂屋百貨店では、「エコフ リサイクルキャンペーン」を定期的に実施しています。お客様の不要になった衣料品・靴・バッグ・寝具を店舗へご持参いただき、引き換えにお渡しするショッピングサポートチケットを利用して、新しい商品を少しお得にお買物していただくという企画です。

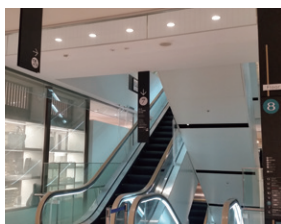


2018年4月に実施したキャンペーンでは合計299,170点の再生可能なアイテムが集まり、2016年8月の第1回開催からの累計回収点数は100万点を突破しました。回収品は繊維製品の素材として再利用されるほか、バイオエタノールやコークスなどへリサイクルしています。



省エネ効率の高い機器の導入・LED化の推進

当社グループでは、CO2を削減し、地球温暖化を防止するためにさまざまな省エネに取り組んでいます。設備の更新や改装時・新規出店時には省エネ効率の高い機器を順次導入しています。



改装とあわせて天井照明をLED化
(大丸東京店)

大丸松坂屋百貨店では、既存照明をLED照明へ変更することにより使用電力及びCO2の削減に努めています。2017年度は、東京店、京都店、神戸店の基本照明を中心に、約7千台のLED化を行い、2018年2月までに全店舗内LED交換対象の約48%にあたる20万4千台をLEDに更新しました。

太陽光パネルの設置

大丸京都店では、孔雀ブロンズ像の背面に縦11メートル・横6.6メートルの太陽光パネル(定格出力10kW)を設

置しました。年間予想発電量約6千kWhでデジタルサイネージや外部サインにかかる電力をまかなっています。

植林の取り組み

大丸松坂屋百貨店の紳士服プライベートブランド「TROJAN(トロージャン)」は、2009年10月に、カーボンフリーコンサルティング(株)との連携により、トロージャンのスーツ又はジャケット10着の販売につきカラマツ1本を中国内モンゴルの植林地に植樹する活動、「トロージャンの森 カーボンフリー」をスタートさせ、初回250本を植樹しました。その後も植林を継続的にを行い、2018年2月末現在合計で4,350本のカラマツが内モンゴルの干ばつ地帯を緑地帯に変えようとしています。“トロージャンの森”の育成は、CO2吸収による地球温暖化防止のほか、砂漠拡大防止、黄砂飛来防止、植樹作業による地元の雇用創出にも貢献する取り組みです。



トロージャンの森

GINZA SIXがSEGES[※]『都市のオアシス』認定取得

GINZA SIXの屋上庭園「GINZA SIX ガーデン」は、2017年10月に「SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)」(主催:公益財団法人都市緑化機構)において、快適で魅力ある都市の緑地を評価する「都市のオアシス」の認定を取得しました。

銀座エリア最大となる約4,000㎡の屋上庭園「GINZA SIX ガーデン」は、地上13階、高さ約56mの建築物屋上に位置し、屋上庭園の約56%にあたる約2,200㎡の緑地を新たに創出。都心の一等地における大規模な緑化に取り組む姿勢が高く評価され、認定取得にいたしました。



※ SEGES: シージェス
(社会・環境貢献緑地評価システム)
緑をまもり育てる活動を通じて社会や環境に貢献している企業の緑地を対象に、特に優れた取り組みを評価・認定する制度。